

## ごあいさつ

働く人とその家族の“笑顔”のために、  
福祉金融機関としての『真価』の発揮に取り組めます。



平素より、私ども静岡県労働金庫をご愛顧いただき、誠にありがとうございます。

当金庫の事業の状況をご案内するため、ディスクロージャー誌「静岡ろうきんレポート」を作成いたしました。多くの皆さまにご高覧いただき、当金庫に対するご理解を一層深めていただければ幸いです。

2018年度からスタートした第3期中期計画(2018年度～2020年度)『真価』では、働く人とその家族の“笑顔”のために、会員とスクラムを組んで(ろうきん)の『真価』を発揮すべく、基本戦略として掲げた「ろうきん運動の深化」、「ろうきん利用の深化」、「営業力・生産性の進化」、「職員力の進化」、「基本戦略を支える経営基盤の進化」の5つの深化・進化を実現するための各施策を進めています。

中計『真価』初年度の2018年度は、まずは基本戦略を軌道に乗せ、3年後の目標達成に向けて活動に推進力を持たせる重要な年度として、会員・運営委員会・ろうきんが一体となって取り組みを進めた結果、目標を大きく上回る成果となりました。ここにあらためて皆さまのご理解とご協力に感謝申し上げます。

さて、金融機関を取り巻く環境は、人口減少や少子高齢化から市場は縮小し、長期化する低金利環境から収益性の低下がささやかれるなど年々厳しさを増しています。一方、金融IT化への対応では、真に必要とされるサービスを見極め、事業のバランスを保ちな

がらも、迅速な対応を求められる環境下にあります。

また、「誰ひとり取り残さない」ことを意図するSDGsへの社会の関心は高まり、今や、多くの企業や団体が取り組みを実践しています。〈静岡ろうきん〉の事業の根幹には、SDGsの考え方と共感する“すべての人々が喜びをもって共生できる社会の実現”があります。金融サービスの提供を通じて、すべての人が必要な金融サービスにアクセスできる環境、いわゆる「金融包摂」は、協同組織の福祉金融機関である〈静岡ろうきん〉が果たすべき役割であると認識しています。

2019年度は、中計『真価』の中間年度として、初年度の成果を受け継ぎながら着実に活動を進展、定着させることで、中計3か年の目標を確かなものとする大切な1年となります。今後、金融機関の収益環境は一層厳しさを増すと見通しがされる中、〈静岡ろうきん〉においては確固たる経営基盤の構築に向け、業務効率化や渉外提案活動の拡充、対面・非対面チャネルの効果的な活用による利便性の追求などを推し進めることで、会員はもとより、より多くの働く人から必要とされる金融機関を目指してまいります。

今後も変わらぬご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2019年7月

理事長

古川 正明